

Ledya Home Doctor

レディアホームドクター

Q&A

下肢静脈瘤の治療にはどのような方法があるのですか？

下肢静脈瘤の最新療法 レーザー治療の普及に期待

下肢静脈瘤の種類によって異なります。直径1ミリの以下のクモの巣状静脈瘤や3ミリ以下の網目状静脈瘤に対しては、硬化剤を直接注入して血流を遮断する硬化療法が行われています。通常1回の注射で済みますが、繰り返し治療が必要な場合もあります。一時的に静脈炎や色素沈着が起こりますが、自然に消えていくので心配ありません。硬化療法で使用する薬剤が保険適応になって、広く行われるようになってきました。ロングパルスレーザーを体表から照射する治療法もありますが、まだ一般的ではありません。

3ミリの超える静脈瘤では、脚の付け根や膝の後ろにある弁が壊れてうっ血が生じて下流の静脈が膨れている場合が多く、弁からの逆流を止めることが最も重要になります。これには手術法と血管内治療法とがあります。手術は、弁からの悪い血液が流れている静脈を抜き取ってしまう静脈抜去術で、これは「ストリッピング術」とも言います。

下肢静脈瘤の血管内治療は、半導体レーザーを直接静脈内に照射して悪い血液の流れを止める血管内レーザー治療が専門の医療機関で行われています。ドイツ製機器が薬事法の承認を得たため、世界標準の血管内レーザー治療がわが国でも広く受けられるようになるでしょう。



回答医師

諸國 眞太郎 先生

医療法人社団操仁会理事長。岡山第一病院 下肢静脈瘤日帰りセンター長(1)。諸國眞太郎クリニック院長(2)。1981年岡山大学医学部卒業。末梢動脈疾患、下肢静脈瘤など血管外科に携わる。

- (1) 岡山市中区高屋343 TEL.086-272-4088
- (2) 岡山市北区錦町6-17 OWLSTYLE錦町2 4階 TEL.086-224-1313

URL <http://www.varix.jp> E-mail laser@varix.jp